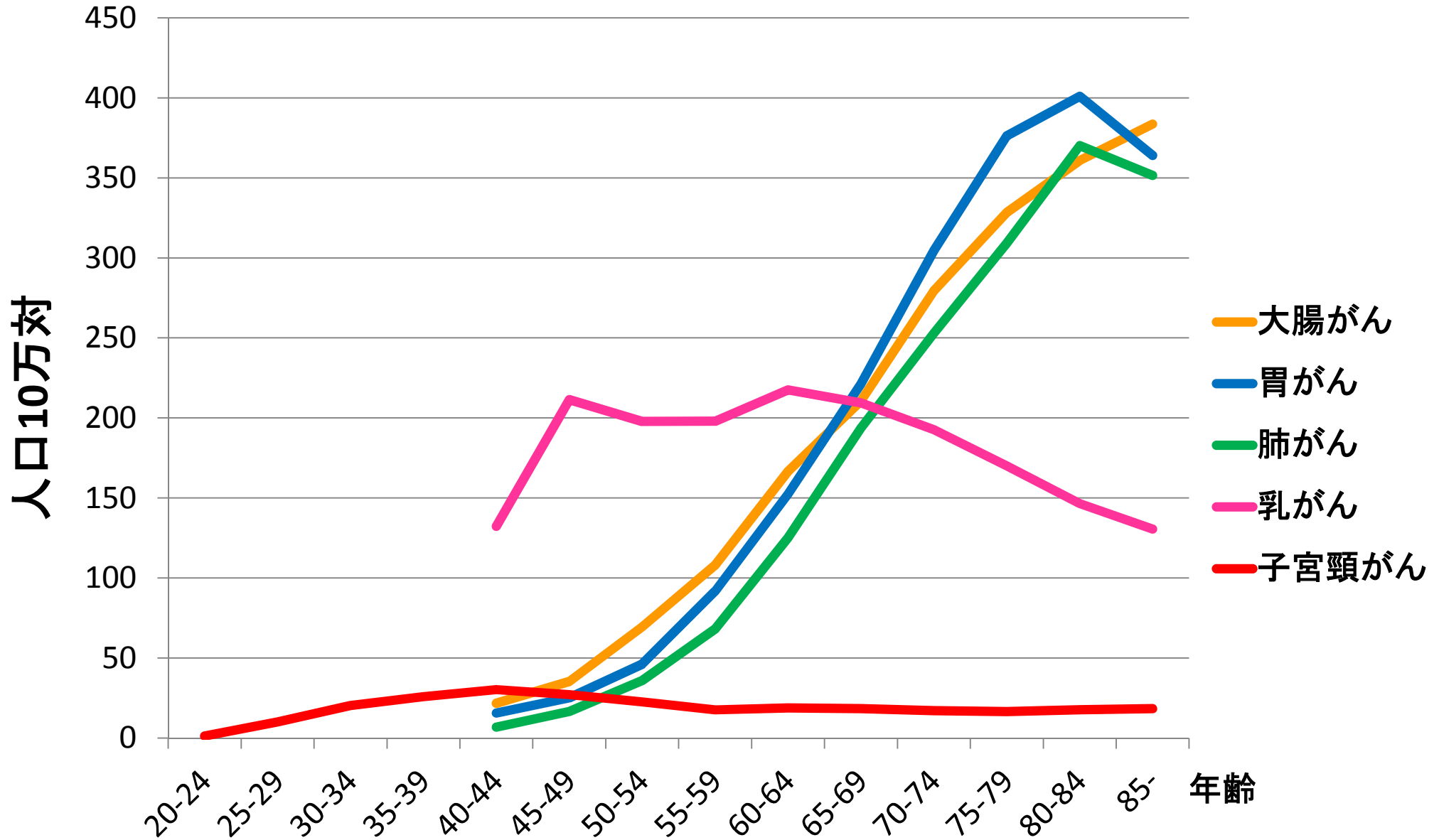


# がん検診の現状について

厚生労働省健康局がん・疾病対策課

# がんの年齢階級別罹患率(2013年)



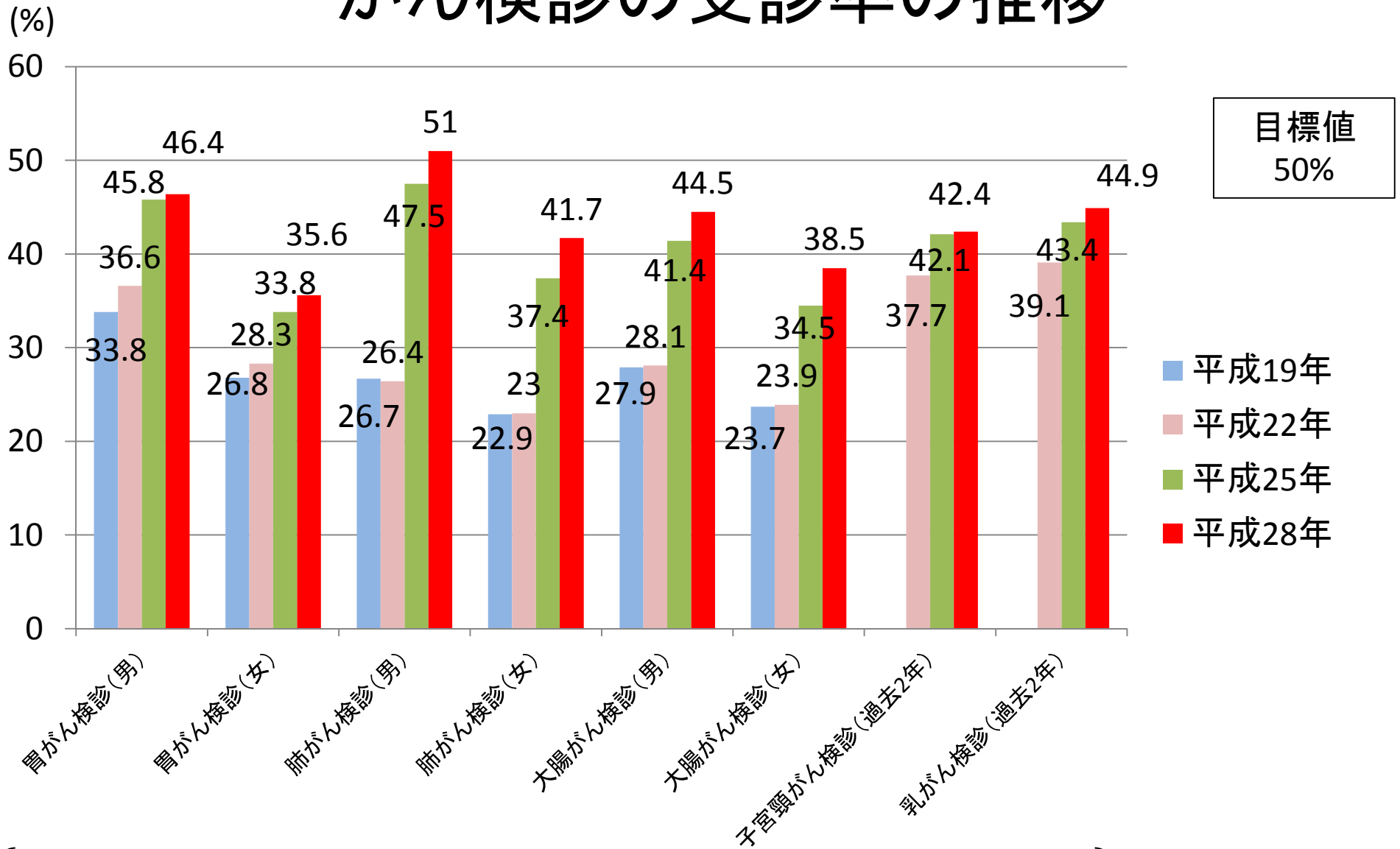
# 市町村のがん検診の項目について

厚生労働省においては、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」  
(平成20年3月31日付け健発第0331058号厚生労働省健康局長通知別添)を定め、  
市町村による科学的根拠に基づくがん検診を推進。

## 指針で定めるがん検診の内容

種類	検査項目	対象者	受診間隔
胃がん検診	問診に加え、胃部エックス線検査又は胃内視鏡検査のいずれか	50歳以上 ※当分の間、胃部エックス線検査については40歳以上に対し実施可	2年に1回 ※当分の間、胃部エックス線検査については年1回実施可
子宮頸がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	20歳以上	2年に1回
肺がん検診	質問(問診)、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診	40歳以上	年1回
乳がん検診	問診及び乳房エックス線検査(マンモグラフィ) ※視診、触診は推奨しない	40歳以上	2年に1回
大腸がん検診	問診及び便潜血検査	40歳以上	年1回

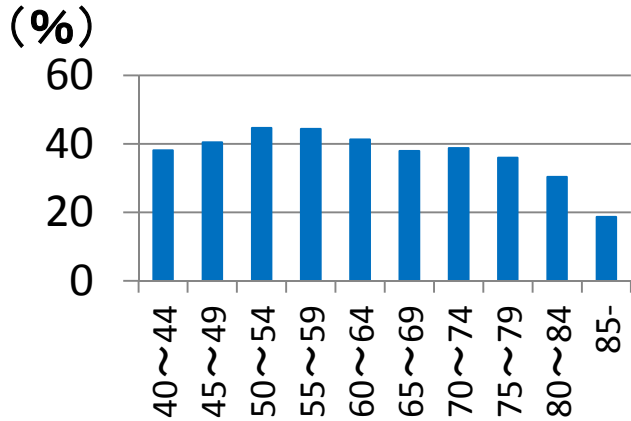
# がん検診の受診率の推移



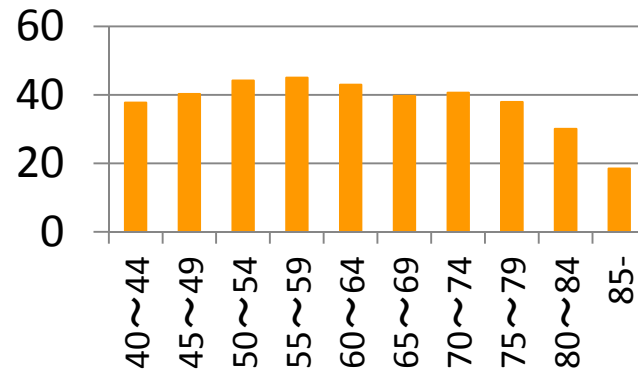
- 胃がん、肺がん、乳がん、大腸がんは40歳～69歳、子宮がん(子宮頸がん)は20歳～69歳。
- 健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)の中で受診したものも含む。
- 平成28年調査は、熊本県を除いたデータである。

# がん検診の受診率

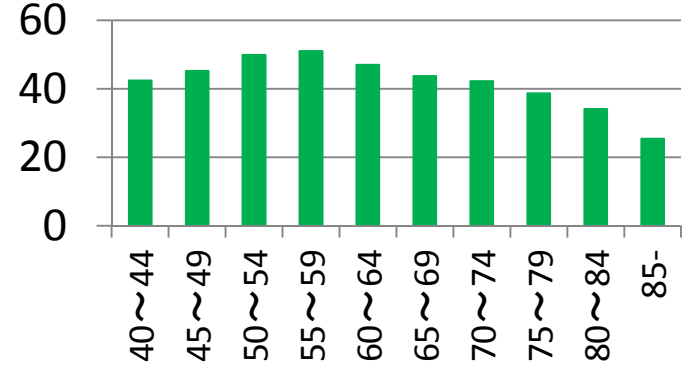
## 胃がん検診の受診率



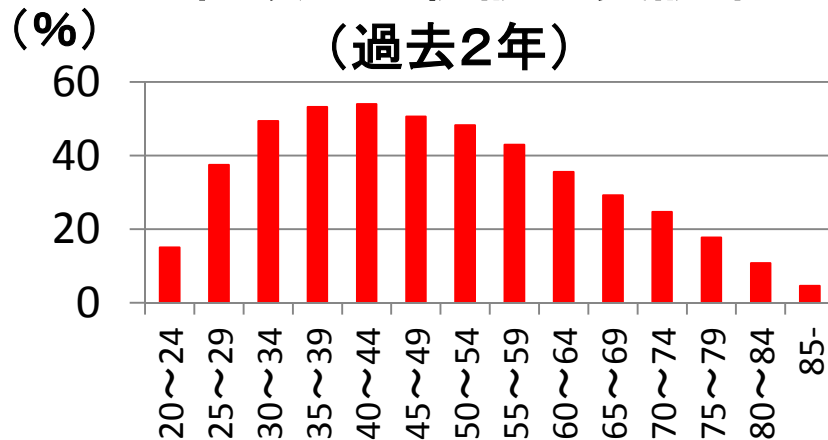
## 大腸がん検診の受診率



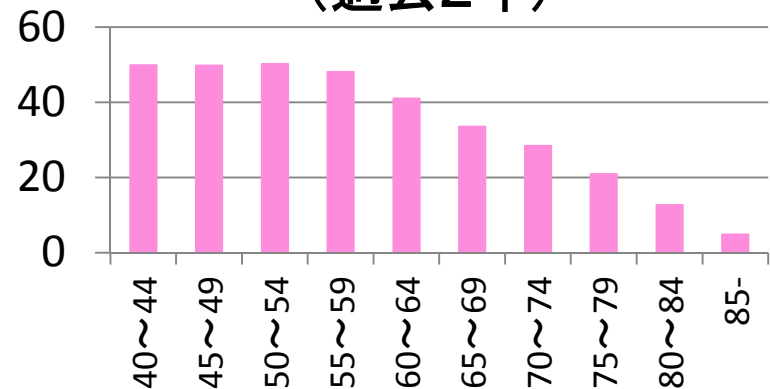
## 肺がん検診の受診率



## 子宮頸がん検診の受診率 (過去2年)



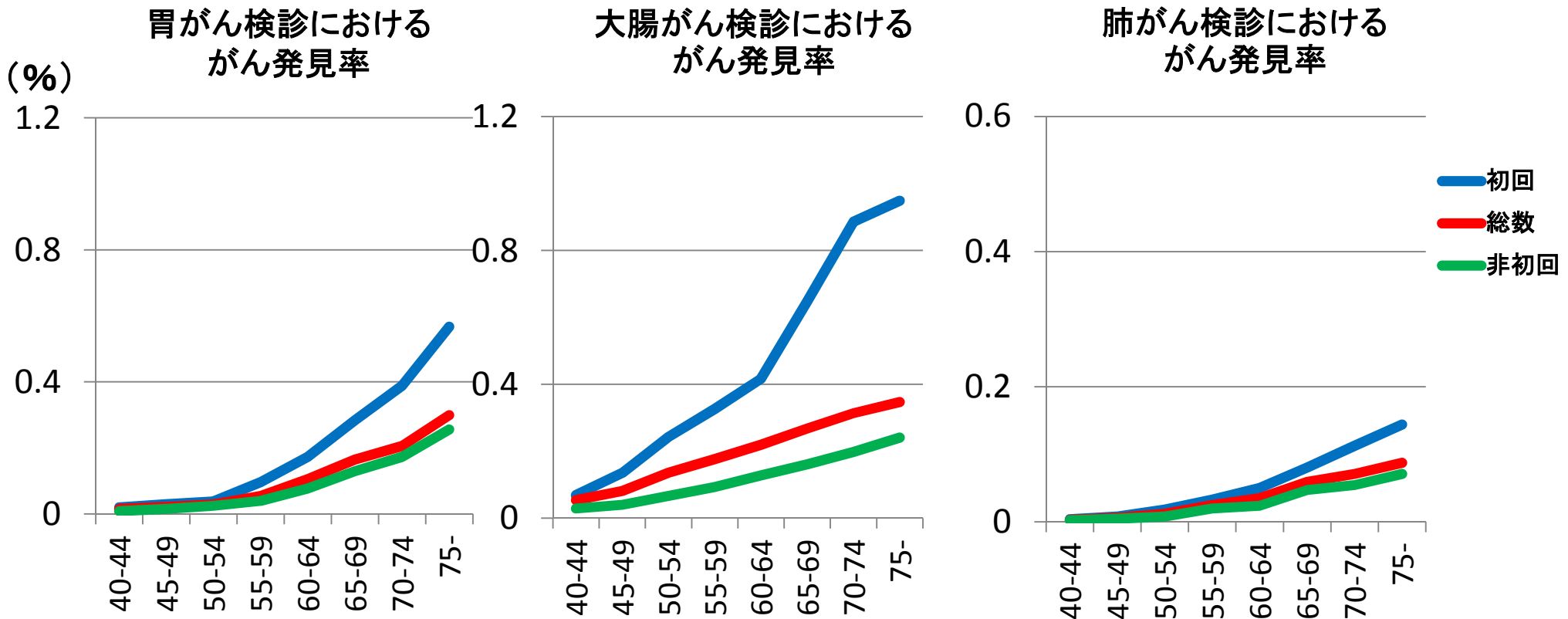
## 乳がん検診の受診率 (過去2年)



# 胃がん・大腸がん・肺がん検診における「がん発見率」

(がん発見率 = がんであった者数 / 受診者数 × 100)

- ✓ 「非初回」の受診者におけるがん発見率は、「初回」よりも低い。
- ✓ 年齢とともにがん発見率は高くなる。

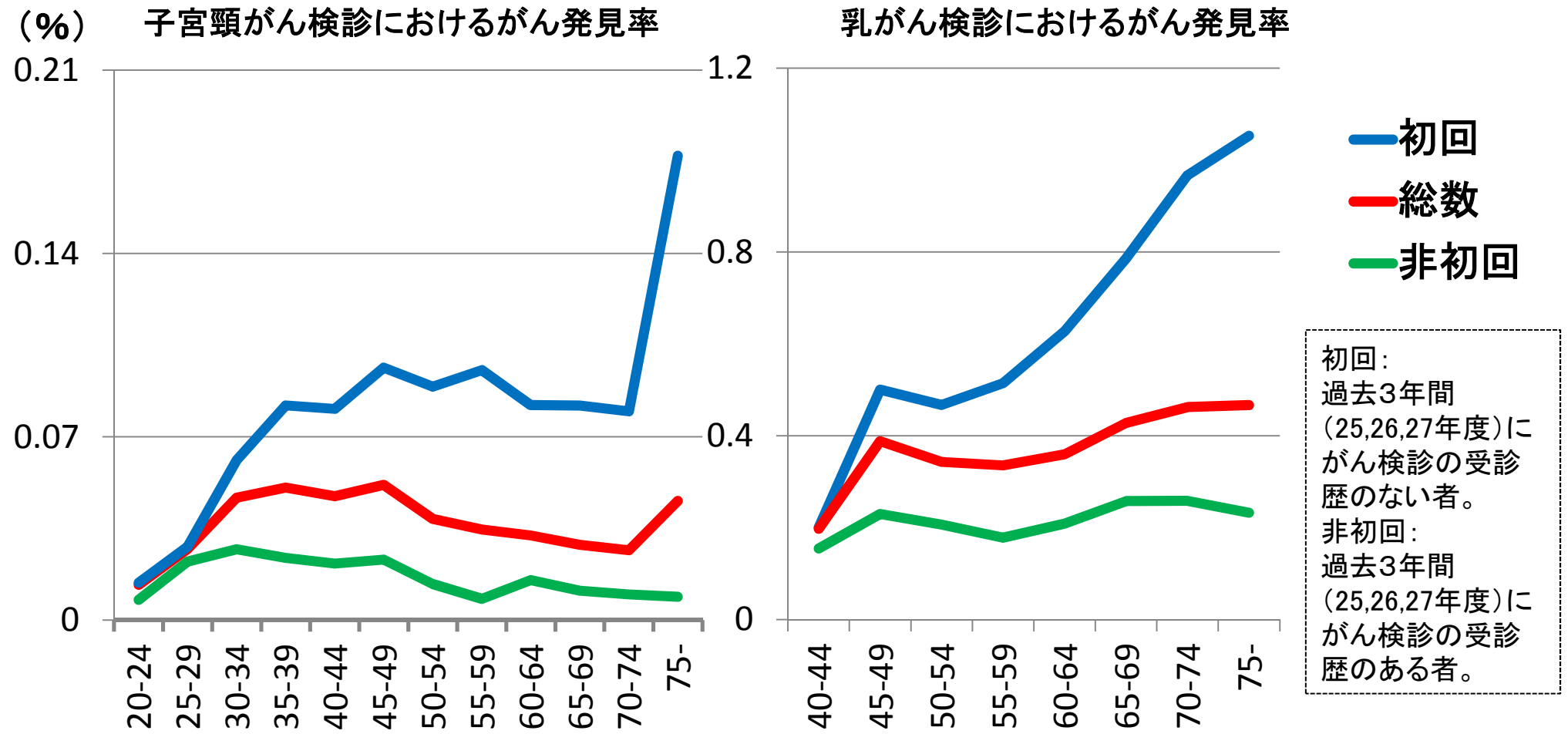


初回: 過去3年間(25,26,27年度)にがん検診の受診歴のない者。  
 非初回: 過去3年間(25,26,27年度)にがん検診の受診歴のある者。

# 子宮頸がん・乳がん検診における「がん発見率」

(がん発見率 = がんであった者数 / 受診者数 × 100)

- ✓ 「非初回」の受診者におけるがん発見率は、「初回」よりも低い。
- ✓ 「非初回」の受診者におけるがん発見率は、年齢が高くなるにつれて減少あるいは横ばいの傾向にある。



# 各種がん検診の精密検査受診率

